

韓国・釜山における日本語・日本文化継承コミュニティと大学をつなぐ試み  
 AN ATTEMPT TO CONNECT THE JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE  
 INHERITANCE COMMUNITY AND UNIVERSITY STUDENTS IN BUSAN,  
 KOREA –EFFECTS AND CHALLENGES OVER THE EXCHANGE MEETING  
 WITH OVER CULTURAL EVENTS-

松浦恵子,釜山外国語大学  
 Keiko Matsuura, Busan University of Foreign Studies

## 1. はじめに

外務省の統計によると平成 28 年（2016 年）のデータでは、韓国に 3 ヶ月以上在留している日本国籍を有する者（長期滞在者と永住者）は、38,060 人おり釜山は 6,312 人となっている。また、韓国の日本語学習者は国際交流基金の 2012 年度の調査では、84 万人で釜山にも数多くの日本語学習者がいる。しかし、せっかくこれだけの日本人と日本語学習者がいても両者には接点が十分にあるとは言えない。また近年では、インターネットや SNS の発達により、直接会わなくても日本語母語話者との接触が可能である。これは時代の恩恵とも言えるが残念ながらインターネット上で出会える年齢層に多様性があるとは言いがたい。さまざまな年齢の日本語母語話者と接触することは、学習者にとって日本語の使用という面のみでなく話す内容的にもプラスになるのではないかと考えられる。本研究では、そのような考えをもとに釜山外国語大学の学生（学習者）と釜山在住の日本人親子を繋いだ試みを事後アンケートの結果と共に紹介し考察し、今後の課題についても触れる。

## 2. 「釜山日本村」とは

釜山には、「釜山日本村」という団体がある。これは、日本人を両親に持つ子供や両親のうち 1 人が日本人、または両親はどちらも日本人ではないが日本で生まれ育った子供（帰国子女）に、日本語や日本文化を伝えていこうという趣旨で 2011 年に釜山外大で立ち上げられた。その後、試験的な活動期間を経て 2012 年に「釜山日本村」として正式に活動が始まった。活動は、毎年 3 月に顔合わせがあり、その後 1 ヶ月に 1 回の活動が 7 回（4 月、5 月、6 月、9 月、10 月、11 月、12 月）ある。日本村のメンバーの子供達は満 2 歳以上で、現在のところ一番年上は小学 4 年生（10 歳）である。釜山日本村は 2012 年当初は幼稚部しかなくその後しばらくして小学生だけ、活動の 30 分前にきて持参した教材で勉強していたが、2016 年 1 学期からは小学部が正式に設置された。子供の人気は、2016 年 1 学期の時点では、幼稚部が 17 人、小学部が 14 人である。幼稚部は毎回、子供達の親が歌、体操、絵本の読み聞かせ、工作などの活動を考えて実施する。一方、小学部は歌や踊りよりも日本語の文字や漢字の勉強などを主にしており、親が自分の子供以外の子供の勉強をみている。

この釜山日本村の活動は、ウェブ上で公開されており、2012 年まではホームページを用い、2013 年以降はアメーバブログを使って毎回の活動を写真付で紹介している。また、釜山日本村立ち上げ当初から関わってきた一部のメンバーで

は不定期で保護者アンケートを行っており、企画内容の向上に心がけている。その結果の一部は、奈須（2014）でも紹介されており、活動の準備に時間がかかることを保護者が負担に思っていることや資金調達の難しさが指摘されている。一方で一部ではあるが企画担当者同士や子供を通じた交流が機能していることも述べられている。

### 3. J-BIT とは

J-BIT とは、Japanese Business and IT の略で韓国の国の事業（「特性化事業」）として 2014 年 2 学期に発足した釜山外大の事業団である。具体的には、この事業団に国からの助成金が入り、大学は学生のための企画をたてて実施するというものである。この事業は大学ごとではなく学部ごとに国に申請するもので、釜山外国語大学では日本語創意融合学部とその他の学部が申請し国からの助成を事業団が受けている。そしてこれらの企画は日本語創意融合学部のものだけでも 1 年に約 35 個ある。企画の例としては学生が計画を立て日本に行き、あるテーマに沿って調査してくるものや、学内で授業の一環として硬筆大会を行うものや、ゲストスピーカーを呼んで講演会を開くものなど多岐に渡る。

### 4. 「釜山日本村」と J-BIT（釜山外大の学生）を繋ぐ試み

ここで、釜山日本村と J-BIT の企画により学生を繋ぐ試みを紹介する。このような企画は現在までに全部で 3 つあり、概要は次に述べる通りである。

#### 4.1 運動会と交流会

釜山日本村には専用に使える活動場所がないため、普段は釜山市内にある塾を借りて活動している。幼稚部と小学部がいつも分かれて活動していることや、広い場所での活動を取り入れたいなどの理由から幼稚部と小学部合同で広い体育館で行う日本式の運動会が企画された。

日にち：2015 年 11 月 7 日（土）

場所：釜山外国語大学の体育館

種目：二人三脚、パン食い競争、20 メートル走など 9 種目

対象：釜山日本村の幼稚部および小学部

当日は、釜山外大の学生が日本村の子供達のために運動会のスタッフとなり子供達の参加を助けた。その後、ランチにピザを食べながら予め準備したトピックで日本人親子と学生が 1 組となり交流会をした。

#### 4.2 マンツーマンの勉強

以前から小学部では、子供達に日本語を教えたいという希望が保護者からあったが、時間や場所の問題や保護者が自分で自分の子供を教えるとうまくいかないなどの問題があった。また、子供達の日本語力がバラバラでクラスを作るのも難しい状況だった。そこで学生と子供が 1 対 1 となり子供のレベルに合った内容で日本語勉強をする企画とした。

日にち：2016年5月22日（日）および6月5日（日）（全2回）

場所：釜山市内の塾

時間：11:00～12:30

（はじめの45分はマンツーマンの勉強。残りの45分はカードなどを使ってみんなで活動。クラス分けは保護者の判断によりざっくりと上のクラスと下のクラスに分けた。）

対象：小学部のみ

なお、学生募集は企画ごとに行なっており日本語力などの応募条件が異なる。さらに当日スムーズに進むよう各企画の1週間ほど前に事前説明会を実施し子供に対する日本語（例:「ばっちい」「痛い痛い飛んでけ～」等）を教えたりもしている。また、所定の条件を満たせばJ-BITから学生には活動費という名目で多少のお金がでる。そして、4.2のマンツーマンの勉強の場合の応募条件は、JLPTのN1またはN2取得者となっており小学部のコーディネータ（筆者）が子供と学生をマッチングした。そして保護者に活動当日の1週間前までに学生に子供に教えて欲しい教材の画像をカカオトーク（日本でよく使われるLINEのようなSNS）で送るように依頼し、釜山外大の学生にはあらかじめ教える箇所を予習してもらって当日はスムーズに教えられるようにした。

#### 4.3 日本文化体験と交流会

4.1の運動会と同じような理由（幼稚部と小学部がいつも分かれて活動していることや、広い場所での活動を取り入れたいなど）から日本文化体験が企画された。

日にち：2016年6月19日（日）

場所：釜山外国語大学の体育館

種目：けん玉、だるま落とし、折り紙、玉入れなど6種類

対象：幼稚部および小学部

当日は、運動会と同様に釜山外大の学生が日本村の子供達のためにスタッフとなり子供達の参加を助けた。その後、ランチにピザを食べながら予め準備したトピックで日本人親子と学生が1組となり交流をした。

#### 5. 釜山外大の学生への事後アンケートの結果

各企画終了後すぐ、学生達にはGoogleフォームを使って事後アンケートを行なった。アンケート内容は主に活動の感想、事前説明会での説明通りうまくいったか、子供に対する日本語を使ってみるのができたか、自分の担当の種目などはうまくできたかなどを聞いた。その結果、最後に聞いた「また参加したいか」に対する回答は以下の表1の通りである。

表1 釜山外大の学生の事後アンケートの結果（一部抜粋）

企画	実施時期	参加数	次回参加希望	備考
運動会と交流会	2015年 11月	12人	是非参加したい（10人） 機会があれば参加（2人）	
マンツーマンの勉強	2016年 5,6月	11人	是非参加したい（4人） 機会があれば参加（6人）	後1人は卒業予定のため無回答
文化体験と交流会	2016年 6月	13人	是非参加したい（9人） 機会があれば参加（4人）	

回答は「是非参加したい」「機会があれば参加したい」「あまり参加したくない」「わからない」の4つ選択肢から選ぶものだが、ほとんどの学生が「是非参加したい」または「機会があれば参加したい」を選んでいる。

#### 6. 保護者への事後アンケートの結果

保護者に対しても各企画終了後すぐに、Google フォームを使って事後アンケートを行なった。アンケート内容は子供に聞いて回答するもの（例：「運動会は楽しかったか」「どの競技が一番楽しかったか」「マンツーマンの勉強は勉強になったか」等）と、保護者に質問するもの（例：「マンツーマンの勉強が始まってから子供の日本語に変化があったか」「運動会の競技と競技の合間に学生と話ができただか」）などである。そして同じく最後に質問した「また参加したいか」に対する結果は以下の表2の通りである。

表2 保護者への事後アンケートの結果（一部抜粋）

企画	実施時期	保護者数	次回参加希望 (子供の意見)	備考
運動会と交流会	2015年 11月	12人	是非参加したい（10人）	自由記述のため後2人は回答無しだった
マンツーマンの勉強	2016年 5,6月	11人	2学期も是非参加（11人）	
文化体験と交流会	2016年 6月	11人	是非参加したい（5人） 機会があれば参加（6人）	

このアンケートの質問も、「運動会と交流会」以外は、「是非参加したい」「機会があれば参加したい」「あまり参加したくない」「わからない」の4つ選択肢となっているが、どの企画も「是非参加したい」または「機会があれば参加したい」の回答が圧倒的に多い。

## 7. 考察

以上のように、釜山外大で実施している釜山外大の学生と釜山在住の日本人親子を繋ぐ企画を3つ紹介した。これらの企画はどれも奈須（2014）で指摘されている資金不足や活動を企画する保護者の負担、参加者同士の交流が一部に留まっていることを改善することに繋がっている。さらに、アンケート結果をみるとどの企画も釜山外大の学生、日本人親子共に満足していると言える。しかし、一方でアンケート結果（自由記述の部分）からは、さらなる改善にもつながると思われる、学生や日本人親子の意見が見られた。

〈学生からの意見〉

- 会って突然勉強するのは大変。子供と遊んで親しくなる時間が欲しい  
（「マンツーマンの勉強」11人中2人の回答。）

〈日本人親子の意見〉

- 運動会は11月は少し肌寒いので10月がいい  
（「運動会と交流会」12人中3人の回答）

これらの意見は、すぐに改善できるものもあれば時間的な問題で保護者に相談してから決めなければならないものもある。学生と子供が親しくなる時間を作るには、保護者がいつもよりも早い時間に家を出て子供と学生を遊ばせる時間を作らなければならない、場所も必要である。これは保護者に相談した上で今後改善できるかどうか見極めたい。そして、運動会の実施時期を11月から10月に変更することは企画者（筆者）とJ-BITで話し合っただけで企画が承認されればそれほど難しいことではない。2015年よりも早めに準備を始めることが肝要である。

## 8. 2016年2学期の予定

2016年2学期は、すでに以下の予定が決まっている。

- 運動会と交流会
- マンツーマンの勉強

学生の募集はこれからだが、アンケート結果を反映して学生のためにも日本人親子のためにもなる、よりよい企画になればと思う。

## 9. 今後の課題

現在のところ、J-BITという事業団が国の助成金を受けてさまざまな企画が進行していて、この日本村の運動会と交流会、マンツーマンの勉強もそのうちのひ

とつである。現在のところ2016年2学期までは予算がでることが決まっているが2017年以降はまだ決まっていない。そのため、万が一予算が出なかった場合は、マンツーマンの勉強などが実施できるのか。保護者でカバーできるのかなどの議論が必要となる。またこのような企画に参加した学生には、金額的に大きな金額ではないが活動費という名目で多少のお金が支払われる。学生のアンケート結果を見ていたら学生達は活動費が目的で参加するわけではないことがわかるため、その点では安心ができるが大学の企画ではなく教師が個人的に声をかけた場合、どのくらい学生が集まるか予測が少々難しい。今後は、将来に向けていろいろな状況を想定して臨機応変に対応していくことが求められると思われる。

#### 参考文献

奈須千佳子,水沼一法,松浦恵子,鄭起永,金 金鐘熙 (2014) 「日本語・日本文化の継承活動に関するアンケート調査の結果と考察」『日語日文学』第61輯,141-159 大韓日語日文学会

- ・釜山日本村のホームページ（～2012年まで使用）  
<http://busan.js.web.fc2.com/info.html>
- ・釜山日本村のブログ（2013年～現在）  
<http://ameblo.jp/busan-nihonmura/>
- ・外務省在留邦人数調査統計 平成28年（2016年）要約版  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000162700.pdf> p26, 33.
- ・国際交流基金 2012年度日本語教育機関調査結果  
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/korea.html#header>